

人とかかわる力を育むための援助の工夫

～協同的な遊びとなるわらべうたを活用して～

沖縄市立美里幼稚園

平良 邦子

I テーマ設定の理由

幼時期は生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期であると共に、人間関係の面で最も大きく成長する時期である。だからこそ、幼児期には、人と人とが触れ合ったり、かかわりを深めたりする多様な体験が求められている。しかし、近年の少子化、核家族化、情報化、都市化により、幼児の家庭や地域での生活や遊びは大きく変化している。特に、テレビやインターネットといったマスメディアの影響で、それを相手に一人で過ごす子ども達が増えており、戸外で体を動かして遊ぶ機会や、地域の子どもの達と集団遊びをする機会も少ない。

平成20年3月28日に告示された幼稚園教育要領の領域「人間関係」では、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う」と示されている。また、「内容の取扱い」(2)においては、「幼児の主体的な活動は、他の幼児とのかかわりの中で深まり、豊かになるものであり、幼児はそこで互いに必要な存在であることを認識するようになることを踏まえ、一人一人を生かした集団を形成しながら人とかかわる力を育てていくようにすること。特に、集団の生活の中で、幼児が自己を発揮し、教師や他の幼児に認められる体験をし、自信をもって行動できるようにすること。」としている。

本園の幼児の実態を見ると、明るく活発で楽しく友達と遊ぶ子がほとんどであるが、トラブルがおこると仲直りに時間がかかったり、教師の支援なしには修復できなかったりすることが多い。中には一人遊びを好む子や仲間に入りたくても自ら入っていくことができない子もおり、人間関係を築く力や困難を乗り越える力

を育むことの必要性を感じる。

これまでの保育を振り返ってみると、友達同士のかかわり合いから生まれる子ども達の育ちを読み取り、互いに認め合ったり、共感し合ったりするような言葉かけを工夫してきたが、かかわりを深めることができず、人とかかわる力を育むまでには至らなかった。

今年度、本園の園内研修では、遊びながら人と人とのかかわり方や相手を思いやる気持ちを育て社会性を身に付けていくことを目指して、協同的な活動として、わらべうたを取り入れている。わらべうた遊びは、自己を意識し積極的に他者とのかかわる機会に満ちている。わらべうたの中にある遊びの要素には、人間関係を育み、豊かな感情の発達を促すものが多分に含まれている。

そこで、協同的な遊びとなるわらべうたを取り入れ、友達と共感し、認め合う場や援助の仕方を工夫することにより、人とかかわる力が育つであろうと考え、本テーマを設定した。

II 目指す幼児像

○友達と進んでかかわり、自信をもって行動する子

○友達と共感し、認め合って遊ぶ子

III 研究目標

協同的な遊びとなるわらべうたを活用した、人とかかわる力を育むための援助の工夫

IV 研究仮説

1 基本仮説

協同的な遊びとなるわらべうたを取り入れ、

友達と共感し、認め合う場や援助の仕方を工夫することにより、人とのかかわる力が育つであろう。

2 具体仮説

- (1)「人とのかかわること」の意義を捉え、幼児の実態を調査・分析することにより、教師の援助のあり方が明確になるであろう。
- (2)わらべうたの教育的効果についての理論研究を深め、わらべうたを取り入れた年間指導計画を作成し、計画的に実践していくことにより、見通しを持って活動を展開することができるであろう。
- (3)わらべうたを活用した協同的な遊びの中で、教師が一人一人のよさを認めることにより、自信が高まり、友達のよさを見つけ、認め合うことができるであろう。

V 研究構想図

次ページ

VI 研究内容

1 研究内容 1

(1) 幼児期の人とのかかわりについて

新しい幼稚園教育要領では、「幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである」とあり、幼稚園教育要領解説の第一節 幼稚園教育の基本にある「1 人格形成の基礎を培うこと」の中にも「幼稚園では、幼児の生活や遊びといった直接的・具体的な体験を通して、人とのかかわる力や思考力、感性や表現する力などをはぐくみ、人間として、社会とかかわる人として生きていくための基礎を培うことが大切である」としている。

そこで、新しい幼稚園教育要領にある領域「人間関係」について改訂された要点を把握し、幼児期における人とかかわりから生まれる育ちについて捉えていくこととした。

① 幼稚園教育要領「人間関係」改訂の要点

幼稚園教育要領解説（平成 20 年 10 月）では

以下のように示されており、幼児期の集団の中で人とかかわりを深めることが重要視されている。

一 次のことなどを「ねらい」に示した。

- ・身近な人と親しみ、かかわりを深めること

二 次のことなどを新たに「内容」に示した。

- ・共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどすること

三 次のことなどを新たに「内容の取扱い」に示した。

- ・幼児が自己を発揮し、教師や他の幼児に認められる体験をし、自信をもって行動できるようにすること
- ・協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるようにするとともに、他の幼児と試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること
- ・互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、きまりの必要性などに気づき、自分の気持ちを調整する力が育つようにすること

② 領域「人間関係」のめざすもの

神長美津子氏は（初等教育資料 2008 6 月）「領域『人間関係』の基本と改訂内容について」で、人間関係のねらいについて以下の 3 つを述べている。

ア 教師との信頼関係を築き、それを基盤にして、幼児が自分の力で行動する喜びを味わいながら、自立心を育てることである。家庭生活とは異なった新しい集団の場となる幼稚園生活において、幼児なりに取り組んだり、解決したりすることを通して充実感や達成感を味わい、しだいに自立的な生活態度が養われていくことが大切である。

イ 幼児は、幼稚園生活を重ねる中で、友達とかかわり様々な体験をしていく。友達と一緒に活動する喜びや楽しさを味わうとともに、

V 研究構想図



時には自己主張がぶつかり合い、怒りや悲しみ、悔しさや寂しさなども体験することになる。こうした様々な感情体験を重ねることを通して、相手も自分も互いに違う主張や感情をもっていることに気づくようになり、初めて相手の思いが理解できるようになっていく。

特に“かかわりを深め”という文言が新たに加筆されているが、このことは、「様々な感情体験を重ねながらかかわりを深め、相手の視点に立って自分の行動を調整することができるようになる過程をていねいに見取っていくこと」を示している。

ウ 同年代の幼児とともに過ごす幼稚園生活では、幼児は様々な生活のきまりや遊びのルールを守ることが必要な場面に出会うことになる。遊びのルールがわかっているにもかかわらず、自分の気持ちの調整がきかないなど、葛藤することもしばしばある。大切なことはルールやきまりの意味に繰り返し触れることを通して、幼児の中に自分の気持ちを調整する力を育てることである。

③ 「人とのかかわる力」について

かかわる力とは、相手に自分の思いや考えを、言葉や行動、態度、表情などによって伝え、理解を得ようとする力である。

幼児期には自我が芽生え、自己を表出することが中心の生活から、相手とのかかわり合う生活を通して相手の存在を意識し自己を抑制しようとする気持ちが生まれるようになり、自我の発達の基礎が築かれていく。また、幼児にとってのかかわる力は、生活の多くを占めている「遊び」を広げたり、深めたり、充実させたりする上で重要だと考える。

④ 自信を高めるための教師のかかわり

幼稚園教育要領の解説では、「2 人とのかかわりに関する領域『人間関係』[内容の取扱い] (2) について次のように述べている。

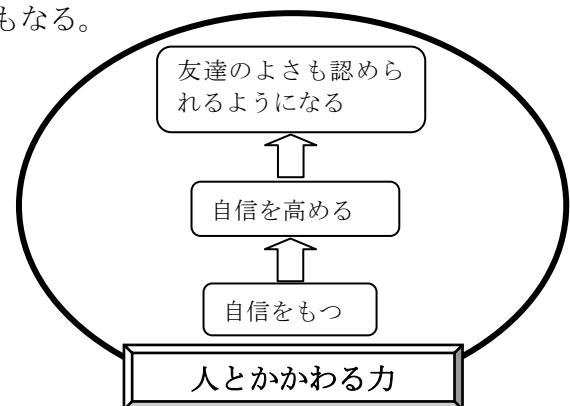
「幼児は、周囲の人々に温かく見守られ、ありのままの姿を認められている場の中で、自分らしい動き方ができるようになり、自己を発揮するようにな

る。教師の重要な役割の一つは、教師と幼児、さらに、幼児同士の心のつながりのある温かい集団を育てることにある。」(中略)

「一人一人のよさが生かされた集団を形成するためには、まず教師が、幼児の心に寄り添い、その幼児のよさを認めることが大切である。」(中略)

「幼児は、ありのままの自分が認められているという安心感や、日々の遊びや生活の中でその幼児なりのよさをとらえる教師のまなざしに支えられ、自分に力があると信じて取り組み、自信をもって行動することができるようになっていくだろう。また、他の幼児からもその幼児のよさを認められることにより、さらに幼児は活力を得て、自信を高めていく。この自信を基盤として、人とのかかわる力も育っていく。さらに、幼児は自分が認められることで友達のよさも認められるようになっていく。」

これらのことから、幼児が自分に自信を持ち、その自信を高め、友達のよさを認められるようになることが、人とのかかわる力を高めることにもなる。



⑤ 仲間とのかかわり

仲間とは年齢・立場などがほぼ等しい人どうしをさす。保育用語辞典によると「仲間関係」とは「子どもが自分と年齢や立場の近い存在である他児に関心を寄せ、一緒に遊んだり、けんかをしたりするような間柄のことをいう。入園をきっかけに、子ども達は多くの仲間を得る機会をもつ。一緒に生活し、遊ぶことを通して他者への関心が芽生える」とある。

小田豊氏・奥野正義氏らによる「保育内容 人間関係」では、親や教師などの大人との関係とは異なった対等な関係であるため、時には、厳

しいぶつかり合いが生じるが、それもまた、幼児にとっては大きな学びの機会となる。つまり、こうした仲間との関係の場となる幼稚園が子どもにとってははじめての社会的集団であり、人間関係を育てる重要な場所であるとしている。

⑥ 仲間とのかかわりをとおして育つもの

小田・奥野の両氏は、同年齢の仲間どうしの集団生活の場では幼児にさまざまな力を身につけさせるとして、以下の4つをあげている。

ア コミュニケーション能力

コミュニケーション能力とは、行われている状況を判断して、自分の意図を相手にわかるように話し、相手の話にも耳を傾けられる能力のことをいう。3歳以降、子どものコミュニケーション能力は急速に発達するといわれている。互いに相手の理解の程度を確かめたり、補足しあったりという仲間との会話や遊びがさらなるコミュニケーション能力を発達させる。

イ “きまり”を理解し、守る力

幼児は仲間との相互作用をとおして、社会性に関するさまざまな能力や知識を獲得していく。仲間との遊びに加わりたいときには「いれて」と声をかける、遊具を順番に使用する、といった遊びのなかでの“きまり”が重要な役割を果たしていることを学ぶ。このような“きまり”は幼児どうしが遊びを展開するなかで自然発生的にできあがったり、保育者からの提案によって決定したりする。この場合、大人から一方的に“きまり”を与えるよりも、幼児どうしで考えさせるほうがより望ましい。仲間関係を円滑に保つためには、互いに自己を主張したり、抑制したりしながら、“きまり”のもつ重要性に気づかされるのである。

ウ 思いやりをもつ心

幼児は仲間との遊びや相互作用をとおして、みずからの気持ちを相手に伝えたり、自分の気持ちを抑えたりしながら、人とかかわりを築いていく。そして、自分の気持ちを主張したり抑えたりというかかわりと密接に絡み合いながら、幼児は他者の気持ちに気がつくようになっていく。

他者の気持ちに気づくということは、自分の立場からだけでものごとをみるのではなく、相手の立場にたってものごとをみること（役割取得）や、他者の気持ちを自分のことのように感じる（共感）に通じている。そして、そうした相手の気持ちの気づきは、相手を思いやる行動へとつながる。

エ いざこざを解決する力

仲間との相互作用のなかで、いざこざやトラブル、葛藤が生じることは少なくない。幼稚園は多くの幼児が集団で生活する場であるため、さまざまな子どもどうしのやりとりのなかで欲求と欲求がぶつかり合うのは当然のことである。こうしたいざこざは、相手の立場を理解したり、きまりを学んだり、コミュニケーション能力を活用するなど、さまざまな社会的スキルを獲得する絶好の機会となる。

(2) 幼児の実態把握

① 実態調査アンケート

ア 調査目的

幼児の家庭での様子や人とかかわり、保護者の意識の把握をし、本研究の資料として役立てる。

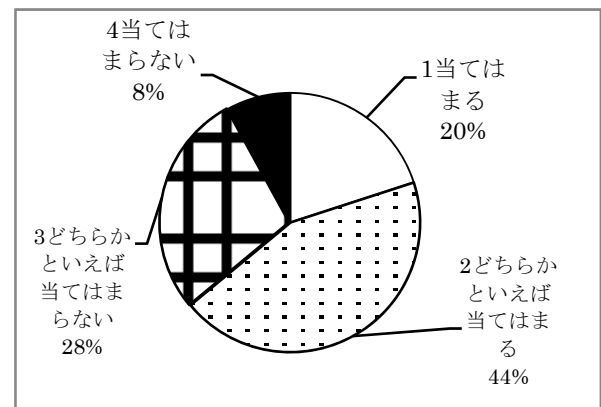
イ 調査方法

(ア)調査対象：美里幼稚園 2組 30名の保護者

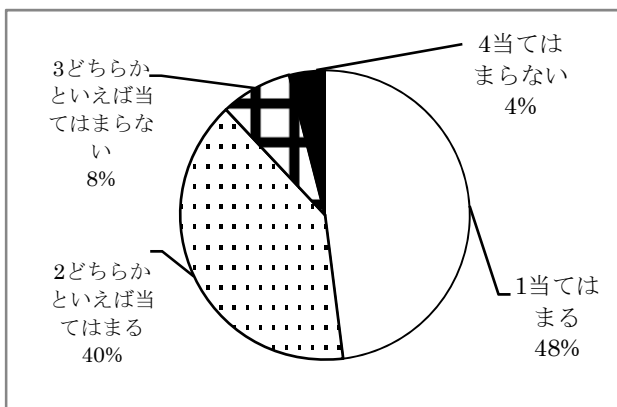
(イ)調査日：平成20年11月14日

(ウ)回収率：83%

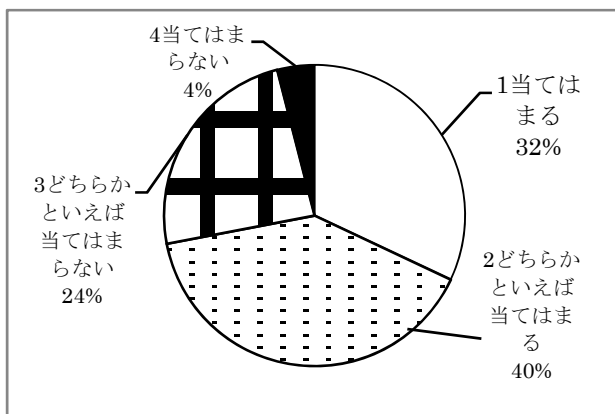
質問1 お子さんは普段、主に屋外で遊ぶことが多い。



質問2 降園後は、主に2人以上で遊んでいる。



質問3 テレビを見たり、ゲームをするのは、一日2時間以内である。

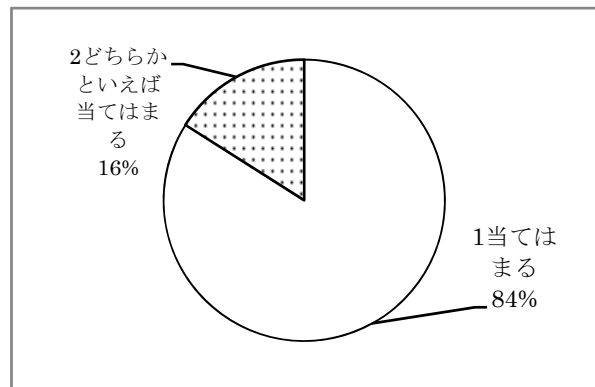


[質問1・2・3の考察]

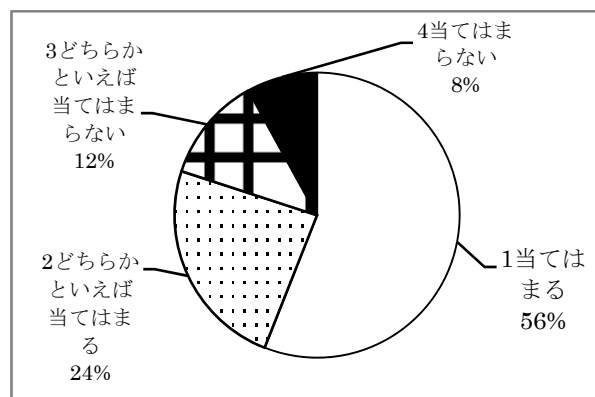
質問1では、主として屋外で遊ぶ子が、当てはまるとどちらかといえば当てはまるを合わせて64%であった。質問2の降園後の一人遊びの割合については12%である。これらの結果と質問3のテレビを一日に見る時間は、2時間を超えとした割合が28%の結果から、テレビの視聴時間、兄弟姉妹のいる割合から考えると一人で過ごすことはあまりないが、他者とかかわって遊ぶ時間は多いとはいえない。

このことから、降園後の子ども達の遊びにおいては、それぞれの家庭での事情を考慮し、テレビを見たり、ゲームをしたりする時間を決めるなどの家庭で話し合うきっかけづくりができるような支援をする必要を感じた。

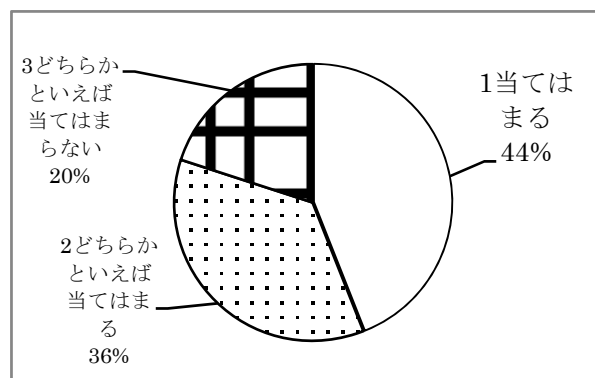
質問4 幼稚園で楽しく過ごしている。



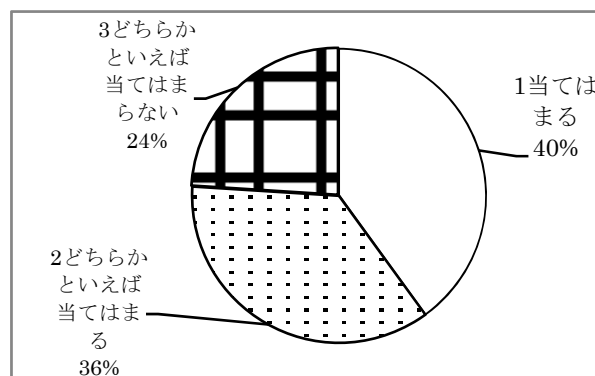
質問5 幼稚園の出来事について、進んで話をする。



質問6 幼稚園での友達の名前が話によく出る。



質問7 幼稚園で習った歌を家でもよく歌う。



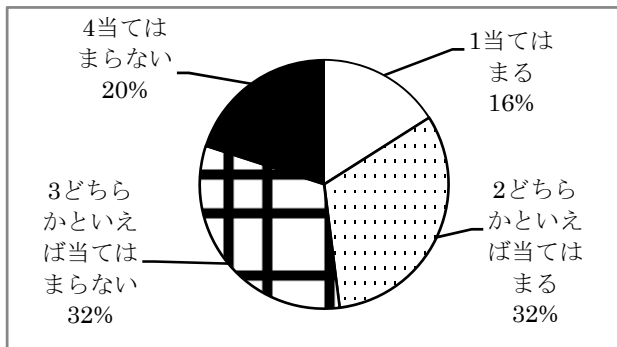
〔質問４・５・６・７の考察〕

質問４では、すべての保護者が、幼稚園で楽しく過ごしていると回答している。幼稚園での出来事や友達の名前について、当てはまる、どちらかという当てはまるとの回答が 80%であった。しかし、約 2 割の保護者が当てはまらない、どちらかという当てはまないと回答しており、「楽しく過ごしている」の判断には、友達とのかかわりの視点があるとは限らない。

以上の結果から、園で仲間とかかわる機会をできる限り多く設定して保育をしていることや、家庭で話を聞いたり、静かなひとときを持ったりしてほしいということを学級だよりでお願いする等、人とのかかわって遊ぶことの大切さについて家庭と連携していく必要があると考えた。

質問 7 については、学級において歌を歌う活動を意図的に取り入れたことが功を奏し、76%の子が習った歌を家庭でも披露していることが分かり、園での普段の遊びが家庭においても継続して繰り返されていることが分かった。

質問 8 ご家庭で「わらべうた」を口ずさんだり、わらべ歌遊びをしている。



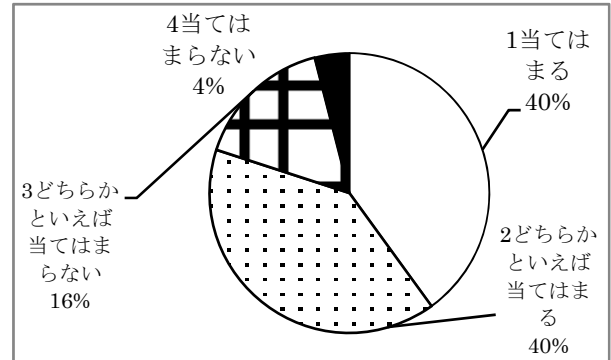
〔質問 8・9 の考察〕

質問 8 では、半数以上が当てはまないとし、わらべうた遊びが子ども達の遊びの中に浸透していない。また、8 割の保護者の方は、何らかのわらべうたで遊んだ経験があるとしている。家庭ではわらべうたが親から子へ伝わるものではなく、自然に伝わっていく環境がなくなっていると思われ、幼稚園で果たす役割が大きいと感じた。

今後、幼稚園においても、園での遊びが身近な

遊びとして広がるように、家庭や地域での人材を活用した取り組みが必要である。

質問 9 保護者の皆様についてお答えください。子どもの頃、わらべ歌を歌い、遊んだ経験がある。

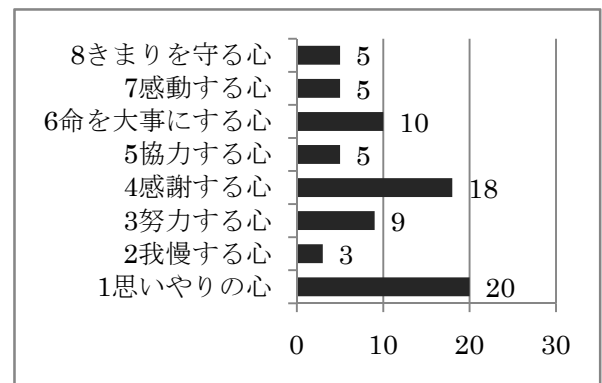


どんなわらべ歌で遊んだことがありますか？

(自由表記及び複数回答可)

記入してもらえた主な内容	人数
○はないちもんめ	10 名
○だるまさんがころんだ	8 名
○みかんのほな	5 名
○ちゃつぽ ○かごめかごめ	3 名
○いーゆぬみー ○アルプス一万尺	2 名

質問 10 お子さんに身につけてほしい心はどれですか。(3つ選ぶ)



〔質問 10 の考察〕

子どもに身につけてほしいと思う心では、「思いやりの心」「感謝する心」「命を大事にする心」「努力する心」が順にあげられている。それらは、人とかかわりの中から育まれることから、集団生活の場となる園においても保護者の思いを大切にしていきたい。

【全体の考察】

アンケートの結果からかかわり合いの中で育ってほしい願いや幼児の遊びの実態が明らかになった。幼児が友達や教師とともに集団生活していく中で良い刺激を受け、安心して自己を発揮できる場となるように、教師は幼児の気持ちに寄り添い、遊びや発達の実態、友達との関係など一人一人を深く理解し、その幼児の考えや行動のよいところを認め、支えていくことが大切であると感じた。

②ソシオメトリック・テスト

ソシオメトリック・テストとは、子どもにクラスメートの写真や名前の書かれたリストを見せて、各クラスメートとどのくらい一緒に遊びたいか評定する「仲間評定法」と、好きなクラスメートや嫌いなクラスメートを「選択」「排斥」する「仲間指名法」がある。

子どもの仲間内地位を検討したり、クラスの中でのグループなどを知ることができ、友達関係を広げたり、新たな友達作りをすることもできるテストである。

本研究では、クラスの中での友達関係を把握し、グループ作りをして活動を進めていくために、クラスの中で好きな友達をあげてもらった「選択」だけを行った。幼児期は好きな友達との関係を基盤にしてかかわりが広がっていくことを考慮し、あえて「排斥」は行わないことにした。右にある表1はその結果である。

今回のソシオメトリック・テストはクラスとして3回目のテストである。1回目では好きな友達を選ぶ際、時間がかかって名前がなかなか出てこない子や同じ学童の友達を選ぶ子が多かった。2回目では当番活動のグループ編成に活用したところ、同じグループの友達の名前をあげる子が多く、友達関係に広がりがあった。3回目の今回は、人数を10人までとし、好きな友達を選んでもらった。全員が3人以上の友達を選ぶことができたが、3人だけしか選べなかった子が6人いた。選ばれる側からは、一人からしか選ばれなかった子が4人おり、相互関係も見られない。また、7人以上から選ばれた子が11人おり、友達関係に偏りがみら

れた。一人遊びで満足している子や進んでかかわろうとしない子は、選択されることも少ないことから、協同的な遊びとなるわらべうたを取り入れることで、より多くの友達とのかかわりが広がるような援助の工夫をしていく必要がある。

表1 (11月10日テスト実施 ◎相互関係○選択関係)

(選ばれる側)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
1	◎			◎	◎				○	◎	○	○	○	◎						○									○		10
2		◎								◎			○																		3
3			◎	◎	○								○																		4
4	◎			◎		◎	◎			○			◎	○																	6
5	◎			◎						○	○																				5
6			◎	◎					◎		○	◎																			5
7								○										○													3
8			○	◎					◎												○							◎			5
9				○					○		◎	○																			4
10	◎	◎			◎	◎			◎				◎							○	○						○	◎	◎		10
11		○	○					○	○													○									5
12		○					○	◎																				○			4
13			◎	◎				◎																				○			4
14	◎																				○	○	○	○	○	○	○	○	○		8
15					○										◎			◎				◎	◎								5
16														○						○			○	○	○	○	○	○	○	○	10
17									○					◎	◎																3
18									○					◎				◎	○												4
19																			◎	○	○										4
20	○				○									○												○					4
21													◎												○	◎					3
22																			○	○			○								3
23																									◎		○	○	○		4
24													○	◎		○						○	◎								5
25														◎	◎							◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	7
26					○									○							◎					◎					5
27																						○			○	◎	◎	◎	◎		4
28								◎	◎				○								○		○	○	◎	◎	◎	◎	◎		8
29																											○	◎	◎		3
30																					○				○						4
◎	4	1	0	3	3	4	0	3	1	6	0	1	3	1	4	1	1	1	1	0	2	0	1	2	4	2	2	4	2	1	58
○	0	0	2	1	4	4	2	1	6	1	4	1	3	7	1	3	3	0	2	3	5	3	2	6	5	3	5	4	2	7	94

2 研究内容2

(1)協同的な遊びとしてのわらべうた

① わらべうたとは

保育用語辞典によると「わらべうた」とは、子どもたちの遊びや生活のなかから自然発生的に生まれ、伝承されてきた歌。主に遊びにともなって歌われることが多く、悪口やはやし言葉などの唱え歌、絵かき歌、じゃんけん、お手合せ、鬼遊びなどの他、乳児をあやす言葉や遊ばせ歌もある。旋律やリズムには日本の伝統音楽の特徴が明確に見られるが、テレビや童謡などの影響を受けているものも多い。強い伝播性を

もちながらも集団ごとに少しずつ変化すること、時代を反映することもわらべうたの特徴である。

② わらべうたの教育的意義

尾見敦子氏は「自己と他者の認識を育てるわらべうた」について次のように示している。

「わらべうた遊びはスキンシップに富んでいるので、肌のぬくもりを通して「他者」を感じることができる。手をつなぐ、向かい合ってお手合せをする中で、相手の暖かい手、小さい手、大きい手に触れ合うことができる。肌が触れ合わなくても、お互い向かい合って、一緒にしぐさをしたり、じゃんけんをしたり、お互いにタイミングを合わせようとして、相手とぴったり合ったときは、相手の存在があるから自分も楽しいという喜びを感じる。声の音色を聞いただけでその声の主を当てる人当て遊びは、まさに他者を認識できて初めて、その楽しさが増す。そして、“当てられた”という満足感が自己を確立していく」としている。

③ わらべうたの定義・分類

高江洲義寛は「沖縄のわらべうた」でわらべうたを次のように定義・分類している。

【わらべうたの定義】

- ・ある地域の子どもたちの間から自然発生的に生まれ、作者が問題にならない。子どもたちがつくった子どもの歌。
- ・楽譜によらず口から口へとうたいつがれてきた歌。
- ・ある程度年月をへて、子どもたちの中に定着している。
- ・ある程度集団的に遊びながらうたわれる。原則として遊びや遊戯を伴い、体を動かしたり小道具を使って遊ぶ歌。
- ・地域の言葉でうたわれ、地域の自然環境や生活習慣をうたっている。また、その中に子ども社会を反映している。
- ・原則的に伴奏なしで、ユニゾン（単旋律）でうたわれる。

【わらべうたの分類】

- となえ歌（数え歌・はやし歌・しりとり歌）
- 絵かき歌 ○おはじき・石けり等 ○まりつき
- お手玉・羽根つき等 ○なわとび・ゴムなわ
- じゃんけん・グーチョキパー遊び ○お手合せ
- からだ遊び ○鬼遊び（かくれんぼ等）

④ 協同遊びとは

保育用語辞典によると「協同遊び」とは、「複数の子どもが力を合わせて取り組む遊びのことをいう。子どもどうしが互いに補い合い、ひとりではできない遊びを展開させる。時には、他児とのぶつかり合い、けんかを引きおこすが、それでも子どもは他児と遊ぶことにいっそうの喜びを感じ、遊びをつくり上げる充実感をあじわうのである」とある。

⑤ 劇遊びとは

保育用語辞典によると、「劇遊び」とは、「絵本やお話のストーリーを基盤として想像の世界で「ふり」や「つもり」を楽しむ遊び。ごっこ遊びと共通する要素も多いが、劇遊びが成り立つためには遊ぶ者どうしでストーリーが共有されていることが前提」とある。

以上のことから、主体的な活動において協同的な遊びとなるわらべうた遊びを取り入れ、一つの目的に向かって取り組むことができる劇遊びへとつなげていくこととした。

(2) 人とのかかわる力を育むための年間指導計画の作成

幼児の発達過程を理解して、幼児の実態を把握し、幼稚園の一年間の子ども達の育ちを見通したねらい、環境構成、教師の援助と配慮、協同的な遊びとなるわらべうたを取り入れた具体的な年間指導計画を作成した。

（次のページ）

研究内容 2

(2) 人とかかわる力を育むための年間指導計画

		I 期（4月～5月）	II 期（6月～7月）
発達の過程		○教師との触れ合いや友達と遊ぶ中で、園生活に親しみ安定していく時期	○園生活の中で安定し、気の合う友達とかかわりながら遊びを広げていく時期
ねらい		・喜んで登園し、教師や友達との遊びや生活に親しみをもつ。 ・集団生活の約束を守りながら、やりたい遊びを見つけ、友達と一緒に楽しむ。	・友達と一緒に遊びや生活を進める楽しさを味わう。 ・友達と楽しく生活する中で、きまりの大切さに気づく。
友達や教師とかかわり	日常的なかかわり	・教師や友達と一緒に遊びや生活を進める楽しさを味わう。 ・園生活における集団行動での約束事を知り、守って遊ぶ。	・会話を楽しみながら友達と一緒に遊ぶ。 ・友達と一緒に活動することの楽しさを味わう。 ・友達同士とかかわりの中で生まれたトラブルは気持ちよく生活するために皆で考えていく。
	具体的な活動	・元気にあいさつをする。 ・友達や先生の名前を呼んで、一緒に遊ぶ。 ・当番活動の仕方がわかる。 ・先生や友達の話を聴く。 ・楽しかったことを発表する。(朝の会・帰りの会)	・あいさつジャンケンを通して、進んであいさつをする。 ・友達を誘い合って、遊びに参加する。 ・新しいグループの名前を決める。 ・自分の思いを話したり、最後まで話を聞いたりする。
みんなでかかわる活動	主体的な遊び	砂場・積み木・ブロック・固定遊具・ままごと・手遊び・歌を歌う・絵本を見る・粘土遊び・描画・パズル・新聞紙・チラシ	砂場遊び・色水遊び（ジュース屋さんごっこ） シャボン玉・製作遊び（廃材利用・水に浮くもの） サーキット遊び・フープ・ホッピング・けんぱ（忍者ごっこ）
	わらべうた遊び	集団遊び（かごめかごめ、はないちもんめ） 鬼ごっこ（たかおに、こおりおに・いろおに） けんけんぱ	集団遊び（だるまさんがころんだ、あぶくたった） 縄跳び（ゆうびんやさん、おおなみなみ） リズム遊び(赤田首里殿内)
	園全体	・入園式・誕生会（毎月）・春の遠足 ・親子交通安全教室・朝顔植え・体育館活動（体育館での約束・簡単なリズム遊び）	・絵本の読み聞かせ・歯の表彰式・夏祭り ・体育館活動（リズム遊び・かけっこ） ・夏野菜を育てよう・ピンクのハート（よさに気づく）
☆援助と配慮 ○環境構成		☆教師も一緒に遊びに加わりながら、子ども達一人一人の思いを受けとめ、安心感を持って遊びが楽しめるようにしていく。 ☆朝の会や帰りの会を設け、今日や明日の日程を伝える場を作り、見通しをもって生活できるようにする。 ☆一人一人の幼児を理解し、毎日の生活の中で、基本的な生活習慣が身に付くよう個々にあった援助をする。 ○友達と一緒に好きな遊びを楽しめるよう遊びのコーナーを設ける。	☆集団遊びを多く取り入れ、友達と意見を出し合ったり、受け入れたりする経験を通して友達と遊ぶ楽しさを味わえるようにする。 ☆学級全体の話し合いの場において、今日の一日を振り返る場を設定し、子ども達の頑張りや気持ちを受けとめていく。 ☆子ども同士の気持ちの行き違いやトラブルに丁寧にかかわり、子ども達が自分自身で考えて解決できるような言葉かけや援助をする。 ○主体的な遊びでは、子ども達の思いも聞き入れながら、遊具の種類や量などを見極める。

		Ⅲ期（８月～１２月）	Ⅳ期（１月～３月）
発達 の 過程		○友達とイメージを伝え合い、力を合わせてやり遂げる楽しさがわかる時期	○友達同士で目的をもって園生活を展開し、自信を持って行動していく時期
ねらい		- 自分たちでルールを決めたり、ルールのある遊びを楽しむ。 - 友達と考えを出し合いながら一緒に共通の目的に向かって遊びを進める楽しさを味わう。	- 友達との信頼関係を深め、互いのよさを認め合いながら生活する。 - 友達と一緒に共通の目的に向かって協力し合いながら遊びを進め、充実感を味わう。
友達や教師との かかわり	日常的な かかわり	- 共通の目的に向かって、友達と協力して考えたり、工夫したりして、遊びを進めることを楽しむ。 - 自分の思いを伝えたり相手の思いに気付いたりしながら、共感し合って遊びを進めていく。 - 友達の意見も聞き入れながら、イメージを共有し合って、遊びに必要なものを作り出していく。 - 友達同士でルールや約束事を話し合う。	- 目的に向かって自分なりに工夫したり、挑戦したりして遊ぶ。 - 友達と共通の目的に向かって活動し、喜びや充実感を味わう。 - これまで経験してきたことを友達と出し合い、取り入れながら遊ぶ楽しさを味わう。 - いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちを持つ。
	具体的 な活動	- 名前を呼び、お辞儀をしてあいさつをする。 - 当番活動を自分たちで進める。 - 友達のよさをみつけようとする。 - 相手の目を見て、最後まで話を聴く。 - 自分の思いを伝えたり、友達の意見を受け入れたりしながら遊ぶ。	- 誰とでも進んであいさつをする。 - 友達のよさをみつける。 - 友達のよさをみつけた子のよさも認め合う。 - 最後までしっかり話を聴く。 - 友達同士で話し合いをして遊びや生活を進める。 - 自分の思いや考えを伝え合って遊ぶ。
みんな で か か わ る 活 動	主体的な 遊び	運動会ごっこ（リレー・玉入れ・綱引き等） 縄跳び・ごっこ遊び・ドッチビー・しっぽとり・ボール遊び・劇遊び	竹馬・縄跳び・スイングスキップ・サッカー・ゲーム遊び・郵便ごっこ・正月遊び（かるた・すごろく・コマまわし・たこあげ等）
	わらべ うた 遊び	集団遊び（こーじゃー馬ぐわ、なべなべそこぬけ） 手遊び（ふゆめばー・いっちくたっちく）・お手玉歌（ていんさぐぬ花・じんじん・ログセロック・あかな）	まりつき・お手玉（あんたがたどこさ・おひとつおとして） 縄跳び（いちわのからす・なーみなーみわんわちゃくり） ゴム段跳び（なかななかほい）
	園全体	- 運動会・秋の遠足・お祭りごっこ - お楽しみ会・じゃがいもの栽培・花の植え付け - 体育館活動（リレー・運動会ごっこ）・生活発表会	- 体育館活動（フォークダンス：パートナー交代） - 豆まき・カレーパーティー・給食試食会 - ひなまつり会・修了製作・修了式
☆援助と配慮 ○環境構成		☆子ども達の考えを受けとめながら、同じ目的や興味を持って遊びが進められるように援助する。 ☆友達とのつながりが深まるよう、仲立ちをしながら、意見を出し合える雰囲気作りをする。 ☆自分で考えたことや友達と相談し話し合って決めたことを遊びに取り入れ、互いに刺激し合ってかかわれるようにする。 ☆友達と楽しく遊んだりする中で、友達のよさを伝え合う場を作り、共感し合って遊びに取り組めるようにする。	☆自分なりの目標を持ち、頑張って取り組んでいる姿を認めていくことで、自信を持って行動できるようにする。 ☆一人一人が自己発揮し、友達と協力して何かを作り上げていこうとする過程を大切にしていく。 ☆協同する経験を積み重ねながら、やり遂げた満足感を味わえるようにする。 ☆子ども達とともに遊びを作り出していく。 ○遊びがじっくりと進められる場や時間を確保する。

3 研究内容3

(1) わらべうたを取り入れた集団遊びの工夫

① 幼児期にふさわしいわらべうた遊び

親しみやすいメロディーやわらべうたの特徴を生かして、幼児期にふさわしいわらべうた遊びを以下のように分類した。

集団遊びを伴ったもの	鬼遊び	・だるまさんがころんだ ・あぶくたった ・かごめかごめ ・とおoryんせ
	じゃんけん遊び	・こーじゃーうまぐわ ・おちゃらかほい
	縄跳び	・ゆうびんやさん ・おおなみなみ ・なーみなーみわんわちゃくり ・いちわのからす ・おじょうさん
	ゴム段跳び	・なかなかほい ・グーパーグーフミ
	お手玉	・あんたがたどこさ ・おひとつおとして ・ていーちえていどうくん
	お手合せ	・なべなべそこぬけ ・みかんのはな ・ちゃちゃつぽちゃつぽ
	からだ遊び	・ロボット歩き ・けんけんぱ ・牛ぬまーれ
主に身体表現を つなげられるもの	うた 手遊び	・じんじん ・花ぬ風車 ・あかな ・いったーあんまーまーかいが ・ていんさぐぬ花 ・口ぐせロック ・ふーゆめばー ・いっちくたっちく

子ども達の興味・関心に応じて劇や身体表現、替え歌、創作ダンスなどで工夫した遊びを取り入れながら、楽しめるようにする。子ども達のかかわりから自然に生まれたおもしろい遊びや遊びの中で生まれた新しいルールなどは、クラス全員に知らせて共有していくようにする。また、郷土に対する伝統文化にも触れる機会が持てるように沖縄で伝承されてきたわらべうたも意識して取り入れるようにしていく。

② 互いのよさを認め合う場の工夫

保育用語辞典によると、「認める援助」とは「幼児が自分で努力したこと、工夫したこと、葛藤

や挫折を乗り越えたことなどをあたたかく受けとめ、ともによるこんだり励ましたりする援助のあり方をいう。幼児を認める時、単に「がんばった」とか「よくできた」といった表面的な認め方ではなく、その子の生活への取り組みの経過を細かくとらえ、どんなことを認めるのかを具体的に伝えることが必要である。また、保育者の気持ちを幼児に伝える表現力も豊かにしていくことが望まれる」とある。

以上のことを踏まえ、「きらきらタイム」「友達のいいところ探し」を設定した。

ア きらきらタイム

集団遊びや劇遊びの練習後は、友達のよさを伝え合う場や自分の思いを発表する場として、“きらきらタイム”の場を設定した。

一人一人

の顔をみて、心のつながりをもった

温かい雰囲気を感じられるように円形になって話し合うようにした。

イ 友達のいいところ探し

友達のよさに気づき認め合う工夫として友達のいいところ探しをした。“ピンクのハート”を準備し、かかわり合いの中から生まれる子ども達の言葉を書き表していった。

ウ よさに気づいた子のよさを認め合う

友達のよさに気づいた子のよさも認め合える場となるように、発表できた子も拍手で認めていく。また、子ども達のピンクのハートを“きらきらの木”に掲示した。

写真



③ 話し合い活動と振り返り活動

劇遊びに入る前の話し合い活動では、毎日の活動に友達と目標をもって頑張ることができるように、“がんばるハート”を決めていく。その場限りの目標に終わらないように活動後は、“がんばるハートの”振り返りの場を持ち、明日への意欲につなげるようにする。その際、子ども達の意見も取り入れたり、一緒になって考えたりできるような言葉かけを意識して活動を進める。



④ 環境構成の工夫

わらべうたに出てくる方言や劇遊びのストーリーに興味・関心をもってかかわれるように方言クイズやお手玉遊びのコーナーを設ける。



(2) 幼児の実態に応じた援助の工夫

協同的な遊びとなるわらべうたを通して、かかわりを深めながら自信をもたせて友達と一緒に活動することの楽しさを感じられるような援助のポイントを以下のようにおさえた。

○劇遊び後の主体的な遊びでは、子どものやりたい集団遊びを“お楽しみタイム”として取り入れる。

○活動を進める際は、あらゆる場面で子ども達と一緒に相談しながら進めていく。

○話し合い活動に飽きたり、行き詰まったりしているグループには、教師も一緒になって考え思いを確認し、かかわり合えるきっかけづくりをしていく。

○頑張っている姿や協力したり、工夫したりして取り組んでいる姿を全体場で認め、互いの刺激となるようにする。

○子ども達のアイディアを活かす。

○時間にゆとりをもって行動できるような言葉かけをする。

○協力して準備や片付けができるように環境を工夫する。

○全員に“ピンクのハート”がもらえるよう配慮する。

○子ども達の温かい言葉やつぶやき、頑張る言葉を取り上げ、伝えていく。

○一人一人の保育記録をとり、援助に生かす。

【人とかかわる力を育むための援助の視点】

幼児の実態	・進んで友達とかかわって遊ぶ。 ・友達の意見を受け入れたり、自分の意見を主張したりしながら、話し合うことができる。 ・グループ活動で協力して進めていこうとする。 ・友達と一緒にとかかわって遊ぼうとするが、トラブルになる。 ・自分の思いを話すが一方向的に話す。 ・友達と活動を進めるが、飽きてしまう。 ・友達に誘われて遊ぶが、一人遊びを好む。 ・話し合いには参加するが、発表には消極的である。 ・興味があるものには一生懸命に取り組む。
教師との配援助	・本児のよさを学級全体場で伝え、認めていく。 ・子ども達の工夫しているところを見逃さず、教師が意図的に伝え、刺激し合っとかかわれるようにする。 ・みんなで力を合わせて活動している姿を認め、協力することの大切さを伝えていく。 ・アイディアを伝え、広げ、返し、つなげていく。

教師の援助配慮と	・時には見守りながら、話し合ったり、考えたりする場面を作り、自分たちで解決できるような援助をする。 ・ふざける子やグループ活動に参加しようとしないう子へは教師が丁寧にかかわっていく。 ・友達の考えも聞き入れて活動できるような言葉かけに配慮する。 ・教師も一緒になって活動をすすめて、みんなで協力して頑張ることの大切さを伝える。 ・かかわりが深まるようなグループ編成に配慮する。 ・話し合いがすすめられるように教師も一緒になって活動に加わる。 ・思いを言葉にしてあげ、発表できる場を作る。 ・頑張っている姿を認め、活動が活かされるようにする。
援助のあり方	◎受けとめる…素直にあるがままの姿をとらえ、許容する。子どもの様子を見守り、気持ちを押し量る。 ◎寄り添う…子どもの心に寄り添う。近くに寄る。 ◎共感する…子どもと同じような感情になる。その子の気持ちや遊びの過程に共感的にかかわる。 ◎よさを認める…子どものとる行動に対して、努力したこと、工夫したこと等を受け入れ、子どもに伝える。 ◎見守る…子ども一人一人の成長の様子をとらえる。 ◎励ます…もっとファイトを出して事に当たるように言葉をかけ、自信につながるような手助けをする。 ◎向き合う…互いに向かい合っている状態になり、子どもが思いを出しやすい雰囲気づくりに努める。 ◎投げかける…教育的な意図をもって、ある状況を作りだし、子どもに合わせ、遊びや活動がさらに楽しく充実するであろうと思われる保育者のアイデアや考えを提案し、子どもの気持ちに訴えて、届くようにする。 ◎援助する…子どもが環境にかかわって興味や関心をもちながら生み出していく活動を豊かにしていく支えや、その中で一人一人の体験が子どもの成長・発達を促すようにする。 ◎言葉かけ…子どもに対してことばを通して行う援助のあり方の一つ。言葉かけによって共感や励ましを受け信頼関係が結ばれる。

Ⅶ 指導の実際

1 活動計画

回	月 日	ねらい(◎人とのかかわり)	活動内容 (♡話し合いの場♪わらべうた ●方言クイズ★絵本の読み聞かせ)	援助の視点
1	11月6日 (木)	◎先生や友達と一緒に楽しく過ごす。 ・絵本を見たり、歌を歌ったりしてわらべうたを知る。	♪手遊び「ふーゆめばー」 ・お手玉遊び (ぺったんこ・あんたがたどこさ) ★絵本「そらをとんだマングース」を見る。 ♡今日の感想を発表する。 (円形)(友達のいいところ探し)	歌や絵本等を通してわらべうたや昔話に興味を持てるようにする。 パートナーを捜せない子へは言葉かけをし、援助する。
2 3	11月13日 14日 (木・金)	◎友達や先生と積極的にかかわりながら共感し合っ て遊びを楽しむ。 ・わらべうたの集団遊びや方言クイズを友達と一緒に楽しむ。	♪手遊び「ふーゆめばー」♪じんじん ●方言クイズ(数字) 【お楽しみタイム】(集団遊び) ♪こーじゃーうまぐわ ・ゴム段跳び(なかなかはい) ・長縄(なーみなーみわんわちゃくり) ・お手玉(あんたがたどこさ) ♡感想発表(きらきらハート探し)	毎回の遊びの導入では、方言クイズをしたり、新しいわらべうたを取り入れたりすることで、楽しい雰囲気 で活動できるようにする。 一人一人が思いきり集団遊びに興味を持って楽しむようにする。

4	11月17日 (月)	・沖縄の昔話をペープサートで楽しみながら聞く。 ◎わらべ歌遊びや方言クイズを友達と一緒に楽しむ。	♪あかな (赤田首里殿内) ●方言クイズ (話に出てくる方言) ・劇「どうしぐあ」の話を聞く。 ♪こーじゃーうまぐわ ♥感想発表	劇に関する方言クイズやペープサートを見て、物語の内容に関心を持てるようにする。
5	11月18日 (火)	◎自分の思っていることを話したり、相手の話も聞いたりしながら、友達と相談して遊びを進める。	♪あかな ●方言クイズ (あいさつ) ・どの役にするか決める。 ・ワークシートにグループの名前を書く。 【お楽しみタイム】 ♪こーじゃーうまぐわ ★絵本「ぼくはがじゅまる」 ♥感想発表	話し合いの中で、一人一人が話し合いに加わり、自分の気持ちを意思表示できるようにする。 うまく伝えられない子へは、援助する。
6	11月19日 (水)	◎発表会について、どんな劇にするのか自分の思いを話したり、友達の話も聞いたりしながら、活動を進める。 ◎グループの友達と一緒に集団遊びを楽しむ。	♪あかな ・グループで遊びの発表するところを話し合って決める。 ・どんな出し物ができるか話し合う。 【お楽しみタイム】 ・ゴム段跳び ・長縄 ・お手玉 ・だるまさんがころんだ ♪こーじゃーうまぐわ ♥感想発表 (きらきらハート探し)	一人一人の思いを受け止めながら、共感し合える場となるように子ども達の意見を認めていく。 遊びに興味を示さず、別の遊びをしている子へは、言葉をかけ、教師も一緒になってかかわる。
7	11月20日 (木)	◎友達のよさに気づきながら、一緒に活動する。 ◎ルールを守って友達と集団遊びを楽しむ。	♪あかな ・セリフの読み合わせをする。 【お楽しみタイム】・友達探し ・なべなべそこぬけ ♥感想発表 (きらきらハート探し)	遊びの様子を見守るとともに困っている時にはアドバイスをする。
8	11月25日 (火)	◎発表会の練習で頑張ることをグループの友達と話し合う。	♪口ぐせロック ●がんばるハートの話し合い。 ・セリフの読み合わせ。 【お楽しみタイム】 ・なべなべそこぬけ ♥感想発表 (きらきらハート探し)	発表会に向けての練習の中で目標をもって取り組めるようにグループでの目標を決めるようにする。
9	11月28日 (金)	◎思いを伝え合いながら友達と一緒に活動する楽しさを味わう。 ・グループで協力して、劇に必要なものを考え、作る。 ・イメージを膨らませて、絵を描く。	♪口ぐせロック ・小道具作りをする。 ・キジムナーの絵を描く。 ・イメージを膨らませ、思いを伝え合う。 ♥感想発表 (きらきらハート探し)	一人一人の考えを聞きながら、一つの目的に向かって友達と協力し合えるような言葉かけをする。 友達のよさに気付いた子のよさも知らせ、認め合うようにする。
10 11 12 13	12月1日 3日 4日 5日	◎自分の思いを伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら、劇遊びを進める。 ・グループで協力して、劇に必要なものを作る。 ◎友達と一緒に工夫し合いながら、劇遊びをする。	♪口ぐせロック ♪じんじん ●がんばるハートの話し合い。 ・劇遊びをする。 ・グループで練習をする。 ・必要な小道具作りをする。 【お楽しみタイム】 ♥感想発表 (きらきらハート探し)	友達とのかかわりの中で、一人一人のよさを認める場を作ることで、友達のよさに気づかせていく。 共通のイメージを持って進められるようにする。

14 15	12月9日 10日 (火・水)	◎友達と役割分担をしながら、協力して劇遊びを楽しむ。	♪発表会の歌を歌う。 ●がんばるハートの話し合い。 ・劇遊びをする。 ♥感想発表(きらきらハート探し)	グループの目標を決め、頑張って取り組めるようにする。遊びの様子を見守り、子ども達同士で考えて行動できるようにしていく。
16	12月11日 (木) 公開検証 保育	◎友達の思いやよさに気づき合いながら、一緒に活動する楽しさを味わう。 ◎友達と一緒に協力してやり遂げようとする。	●がんばるハートの話し合い。 ・劇遊びをする。 ・お客さんの前で発表する。 【お楽しみタイム】 ♥感想発表(きらきらハート探し)	お客さんに見てもらい緊張や不安を受けとめながら、人とかかわる楽しさを伝えていく。
17 18	12月16日 17日	◎共通の目的に向かって、練習に取り組む。 ◎友達の頑張りを認め、励まし合いながら頑張る。	●がんばるハートの話し合い。 ・劇遊びをする。 【お楽しみタイム】 ♥感想発表(きらきらハート探し)	クラスのみんなで頑張って取り組んできた過程を振り返りながら、自信を持って表現できるようにする。 友達とやり遂げた満足感が味わえるようにする。
19	12月19日 (金)	◎友達と一緒に物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。	★生活発表会でこれまで友達と一緒に頑張ってきたことを見てもらう。 ・役になりきって、表現遊びを楽しむ。	

2 活動の概要

(1)「わらべうた遊びをしよう！」 【第1時～第3時】

【教師の思い】

- 友達や先生と一緒にしかかわりを持ちながら活動することで、沖縄のわらべうたや方言に興味・関心を持たせたい。
 - 集団遊びを取り入れたわらべうた遊びを展開する中で、ルールを守って遊んだり、友達とのつながりを感じたりしながら、人とかかわる楽しさを味わわせたい。
 - 友達の思いやよさに気づき認め合いながら、友達と共通の目的に向かい協力して取り組めるような活動・遊びを取り入れたい。
- ☆そこで、わらべうた遊びを取り入れ、生活発表会に向けての劇遊びを展開することとした。

【第1時～3時】

友達と一緒に絵本や歌を通してわらべうた遊びを楽しむ。

《活動内容》

- 手遊び「ふーゆめばー」
- ♪じんじん
- 方言クイズ「数字」「あいさつ」「動物」
- 絵本を見る
- こーじゃーうまぐわ
- 集団遊び

●手遊び「ふーゆめばー」

子ども：「いみわからない」

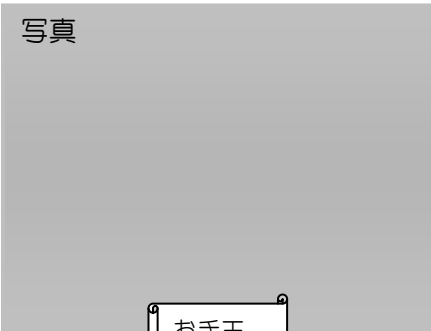
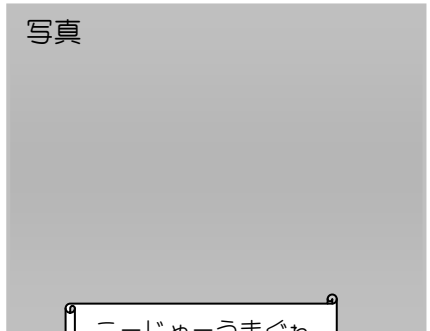
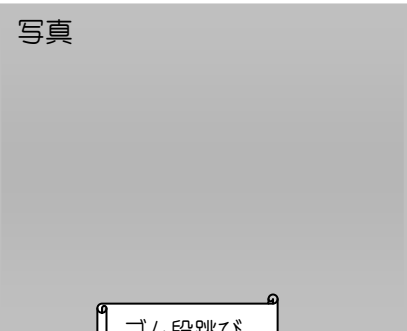
教師：「方言の手遊びだよ」「方言ってわかるかな？」

子ども：「あんまーっておかあさんでしょ」

教師：「すごいね」

子ども：「ほうげんっておもしろいね」

☆今日はどんなクイズをするの？と楽しみに待つようになった。

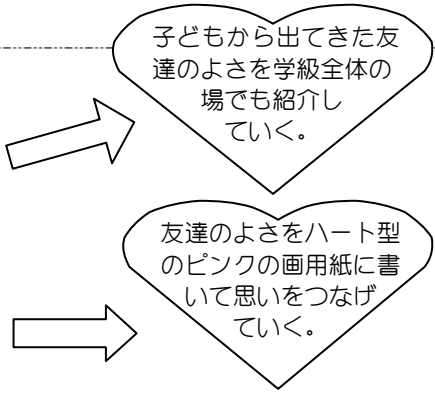
幼児の姿	教師の援助
●集団遊び『こーじゃーうまぐわ』 ・歌を歌いながら、友達とのジャンケン遊びを喜んで楽しむ。 ・ジャンケンに負けたことを悔しがり、ルールを守らず一番前がいいと、終始先頭にいる子やふざけあって友達の洋服をひっぱったりして遊ぶ子が数名いた。 ●長縄『なーみなーみわんわちゃくり』『いちわのからす』 ・「ゆうびんやさんやったことあるから、かんたんだよ」 ・「〇〇と一緒に２人跳びしてもいい」 ・「今度は３人で跳んでみよう」「一緒に跳ぼう！」 (一人跳びが多かった一学期に比べて、２人跳びや数名で挑戦する姿があった。) ●お手玉『あんたがたどこさ』『おひとつおとしておさら』 ・お手玉遊びが好きで興味のある子は、友達と「一緒にお手玉やろう」と誘い合って遊ぶ。 ・ミルクや弁当を早く食べ終えた子が、好きな遊びの時間もわらべうた歌を歌って、友達と一緒に遊ぶ姿があった。 ●ゴム段跳び『なかななかほい』『グーパーグーフミ』 ・新しい遊びのゴム段跳びは、歌に慣れていないこともあってリズムをつかめない様子であったが、小学校に兄弟がいる子は「お姉ちゃんと一緒にやったことあるから、わかるよ」と言って、遊びを紹介する場面もあった。 ●感想発表 S子：「今日は、H子とK子となわとびをとびました。 たのしかったです。」 教師：「友達と３人でとんだよね。すごいね！」 S子：「また、やりたいです」 教師：「今度、みんなも友達と一緒に跳ぶことに挑戦してみてね！」 「違う遊びにも挑戦してみると楽しいよね」	○一回目では勝ち負けにこだわり、ルールを無視する子も見られたので、子ども達の言葉の一つ一つを取り上げながら、次回はどうしたら楽しく遊べるか？等、ルールを守って遊ぶことの大切さを毎回の遊びの中で伝えていく。 ○新しい遊びや頑張っている工夫して遊んでいる様子等を学級の前でも紹介することで、やってみたいという気持ちを持てるようにする。 ○これまで、何回か取り組んできたお手玉は、興味を示さず別の遊びをする子もいるので、教師も一緒になってかわる。 ○遊びに出てくる歌は、歌詞を書いて、掲示することで子ども達に興味を持って、遊べるような環境をつくる。 ○活動後は、今日のルールの確認をしたり子ども達の気持ちを受けとめたりできるよう全体で円形になって感想発表をする場を持つ。 写真 感想発表 
遊びの様子	
写真  お手玉	写真  こーじゃーうまぐわ 写真  ゴム段跳び
・「今日はどんなわらべうた遊びをするのかな?」「学童でもやったことあるよ」「おもしろいよ」とわらべうた遊びを楽しみにしている。	

(2) 劇遊びをしよう！【第4時～19時】

【第4時】

方言クイズや沖縄の昔話をペープサートで楽しむ。

幼児の姿	教師の援助
●方言クイズ 教師：「方言クイズをします。」「いただきますは方言で何と 言うのでしょうか？」 A男：「くわっちーさびらだよ。」 教師：「ピンポン！正解です。」「それでは、ありがとうは？」 A男：「にふえーで一びるでしょ」 子ども達：「A、すごいね」「方言名人だよ」 教師：「Aさん、どうして知っているのかな？」 A男：「おばーから教えてもらったよ」 子ども達：「おばーとおじーは何でも知ってるよね」 M子：「Mのおばーも方言上手だよ」 「いつもにふえーで一びるって言っているよ」 教師：「そうなの（笑）それじゃ、みんな今度、おじいちゃんやおばあちゃんからいろいろな方言を習ってきて、先生にもおしえてね」 子ども達：「そして、また、方言クイズやろうね！」 ・弁当やおやつの時間でも「くわっちーさびら」「くわっちーさびたん」の方言を使って喜んであいさつしている姿があった。 ●劇「どうしぐわ」のペープサート ・発表会でやりたいことの話し合いでは、「歌」「桃太郎」「踊り」等、いろいろな意見が出た。 ・ペープサート後は、子ども達から「いっしょにあそんでよかったね」「キジムナーはやさしいはずよ」「おもしろかったね」「ようちえんのアコウの木にもキジムナーいるかな？」「ガジュマルにしかいないよ」等といろいろな感想がでた。 ・「おもしろそうだね」「こどもをやりたい」「一緒にキジムナーをやろう」等と声が上がり、どの子も興味を持ったようである。後日役を決めることを提案し、考えてきてもらうようにした。 ・活動後は、好きな遊びの時間に子ども達同士で「一緒にやろう」「キジムナーやってね」等と友達を誘い合って、役を交代しながらペープサートを使い、劇遊びを楽しむ姿があった。	○活動前に劇に出てくる言葉や身近にある言葉を方言に表し、クイズ形式で質問をして、楽しめる活動となるようにする。 ○子ども達の一つ一つのつぶやきや発した言葉を大切に、子どもに問いかけたり、一緒に考えたりできるような言葉かけの工夫をする。 方言クイズ ○ペープサートを通して、イメージを膨らませて、劇の内容に関心が持てるようにする。 ○時間を見ながら「お楽しみタイム」として子ども達の要望を聞きながら、集団遊びを取り入れるようにする。 ○活動後はペープサートを使った劇遊びができるように環境を工夫する。 ○「明日どの役にするかきめようね」と言葉かけをし、明日への活動に期待が持てるようにする。 ○わらべうたに関連した遊べるコーナーを作る。 写真 ペープサートを使って遊ぶ様子

幼児の姿	教師の援助
♥♥♥いいところ探しへの取り組み♥♥♥ ●感想発表の場面で… 教師：「みんなが頑張っているから、これから友達のいいところ探しをしようね！」 「みんなピンクの心をいっぱい持っているよね！」 「ピンクのハートがいっぱいになったら、みんなの心はどうなるかな？」 K男：「すてきになるよ」 Mさん：「友達がいっぱいになるよ」 Hさん：「優しい人になるんだよ」 教師：「みんなは素敵な心のお友達がいっぱいだから、これから、きらきらハートさんを見つけたら教えてね」	○今まで学級で取り組んできた「ピンクのハート」の優しい言葉について振り返り、「みんなで素敵な心になろうね」「友達のいいところをいっぱいみつけようね」等と話し、友達に認められ、自信が持てるきっかけづくりとなるようにする。 ○感想発表では、友達のすごいところや頑張ったところ等、一人一人の思いを受けとめながら、友達のよさに気づき合えるようにする。
・早速、普段の生活の中からも、「せんせー、〇〇さんはお掃除ががんばっていたよ」「けんかしたけど、ごめんなさいできたね」と友達のよさを見つけ、言葉にする場面があった。 ・きらきらタイムの場において、最初はいいいところ探しのイメージが持てず、楽しかったことの発表だけに終わる日もあったが、教師がモデルとなり、一人一人のよさを見つけていったことでいいところ探しの発表者も増えていった。 ・友達に言われて嬉しかった言葉や友達のいいところをピンクのハートに書いていったことで、ピンクのハートを受け取った子は喜び、また、クラスの雰囲気はみんなのいいところを探そう、見つけようとする気持ちになっていった。	 ○毎回の活動において、ピンクのハートは、全員がもらえるようにし、もらっていない子へは配慮をする。

【第5時・6時】

どの役にするか、どんな出し物ができるか相談して決める。

幼児の姿	教師の援助
●劇遊びの話し合いの様子 ・「お家でかんがえてきたよ」「もう決めたよ」と考えてきた子もいた。 ・それぞれが自分のやりたい役のグループ同士で集まるが、少ないグループ、多いグループができ偏りがでた。しかし、「一緒にキジムナーやろう」と友達を誘い、少ないグループへ移動したり、譲り合ったりしている姿があった。 ・そのことを、「Yさん、やさしいね」「我慢してくれたよ」と話し、譲った友達のことを認めている姿があった。 ●「ピンクのハートを飾る木の名前をきめよう！」 【子ども達から出てきた木の名前】 ◇すてきな木◇やさしい木◇ピンクのハートの木◇みんなの木◇きらきらの木◇友達たくさんのお木◇2くみの木など… ・子ども達の意見を引き出し、どんな名前がいいか？話し合っており、最後は多数決で決めることになった。	○一人一人の思いを大切にやりたい役を聞いていき、子どもの気持ちを汲み取っていく。 ○ソシオメトリック・テストを活用し、グループ構成に配慮する。 ○人数に偏りが出てきたことを子ども達に問いかけ、どうしたらいいか？考えられるようにする。 ○グループ分けの画用紙を用意し、グループの友達と協同して活動に参加できるようにする。 ○譲り合う気持ちや気づき合った思いを大切に子ども達に知らせていく。 ○子ども達の思いを受けとめ、クラスには素敵なお木がいっぱいあることを知らせていけるように、壁面に木を作ることを提案

・「ログハウスも「きらきらハウス」だからいいね」と多数決で“きらきらの木”に決定した。中には自分の意見が通らない子もいたが、納得して、折り合いをつける姿があった。 【今日のきらきらハートさん】 ♥SさんがKさんにルールを教えていました。 ♥Hさんは、こーじゃーうまぐわを一緒にやろうって言うてくれました。うれしかったです。 (どの子も嬉しそうな顔で友達からピンクのハートを受け取る姿が見られた。) 【子どものつぶやき】 R男 : 「かたつむりは、方言で何て言うか分かるか？」 子ども達 : 「???」 R男 : 「チラシに“ちんなん”って書いていたよ。お父さんが教えてくれたよ」(持ってきたチラシを見せ、自慢げにみんなに伝えるR男)	する。 ○木の名前は何にするか？子どもに問いかけ、一緒に話し合う場面を作る。 ○いいところ探しについてイメージが持てない場合、教師がモデルになって伝える。 写真 話し合い ○子ども達のおもしろい発見や言葉を取り上げ、全体にも伝えていく。
--	--

【第7時・8時】

友達の工夫しているところを取り入れながら劇遊びをする。

幼児の姿	教師の援助
●セリフの読み合わせ H男 : 「こんなしてやったら」(手を広げる動きを見せる) 子ども達 : 「いい考えだね」(考えを受け入れ、新しい踊りを取り入れる) ・字が読めない子は、読める子の後に続いて声を出し、一生懸命に参加していた。 ・シナリオにあるものとは違う掛け合いの中で子ども達から工夫されて出てきたセリフや動作などは、活かせるように取り入れ、子ども達の意欲を盛り立てていくようにした。 【今日のきらきらハートさん】 ♥なべなべそこぬけで一人だったけど、Aさんがやろうって言うてくれたよ。うれしかったです。 ♥Mさんが一緒に手をつないでくれたよ。 ♥Tさんが優しくお話を教えてくれました。 (友達にピンクのハートを渡したり受け取ったりする様子を周りの友達もいい表情でそのやりとりを見ている。)	○各グループのシナリオを準備しておき、いつでも子ども達同士で練習し合えるようにする。 ○全体的に各グループを見て回り、頑張っている様子に励ましの言葉をかけたりする。飽きてグループの練習に参加しようしない子へは、一緒になってかかわる。 写真 がんばってたね どうぞ！ ありがとう

【第9時】

グループの友達と一緒に協力して劇に必要な小道具づくりをする。

幼児の姿	教師の援助
【活動前の子どものつぶやき】 J男 : 「今日はピンクのハートもらえるかな?!」と活動前につぶやく。 M子 : 「がんばったらもらえるはずよ」 J男 : 「・・・」(うなずく) ●小道具作り ・友達と一緒にどんな小道具が必要か話し合っ、必要な材料を選び、友達と一緒に作る。 ・友達のアイディアを見て、真似して作る子もいた。	○毎回の活動で新しい歌や手遊びを導入していく、新鮮な気持ちで取り組めるようにする。 ○スムーズに小道具作りがすすめられるように必要な材料や道具を準備しておく。 ○友達に認めてもらいたいという気持ちが表れてきているので、ピンクのハートをまだもらっていない子へも配慮する。

【第 10 時～15 時】

グループの友達と一緒にセリフの読み合わせをする。

幼児の姿	教師の援助
●がんばるハートの話し合い ・「今日は大きな声をだそう」「みんなで心を一つにがんばろう」「自分で考えて動こう」「ふざけないで最後までがんばろう」とグループでいろいろな話し合いがなされていた。 ●劇の練習 ・「こんなして踊ったらいいんじゃない?」「ここはこうしよう」と踊りを工夫し合う姿があった。 【今日のきらきらハートさん】 ♥ Tさんは、葉っぱ（小道具）を片づけていました。 ♥ Jさんは、最後までふざけないでがんばっていたね。 ♥ HさんとKさんは、ちゃんとおやますわりができていたよ。 ♥ Kさん、今日はがんばっていたね。すごいよ。	○前の活動を振り返ることで、各グループで今日の目標を決め、意欲的に取り組めるようにする。 ○練習に入る前に、踊りや動作など工夫し合う時間を設け、「こうするといいね」「いいアイディアだね」と子ども達のイメージを引き出せるような言葉かけを行う。 ○生活発表会までの見通しを持ちながら、意識して子ども達同士で考えて動いたり、セリフを言ったりできるよう、教師は見守り、必要などころでの確かな言葉をかける。

【第 17 時～19 時】

友達と一緒に励まし合いながら、共通の目的に向かって取り組む。

幼児の姿	教師の援助
●劇の練習 ・「今日の練習もがんばろうね」「家族みんなで見に来るってよ」と話し、生活発表会に期待を持って練習に取り組む姿があった。 ・好きな遊びの時間には、発表会に見せ合うグループとは別の友達と数名で「なべなべそこぬけ」をしたり、替え歌でゴム段跳びをしたりして遊ぶ姿があった。 ・「今日の“がんばるハート”は少ししかできなかった。でも明日は頑張る」「今日はボーっとしていたから明日は頑張る」等の言葉もあって、今日の一日を見つめ直しながら、一人一人が目標を意識していた。 【今日のきらきらハートさん】 ♥ Jさんが「こんなしてやったら」って教えてくれました。	○クラスみんなで頑張って取り組んできた過程を振り返りながら、自信を持って表現できるようにする。 ○友達とやり遂げた満足感が味わえるように一人一人の姿を認め、褒めていく。 ○生活発表会までのカレンダーをみて、自主的に練習できるような言葉かけをしていく。

美里幼稚園の取り組み
P T A 研修会

日時：1月14日（水）

講師：田中 美也子先生

内容：「親のかかわりとわらべうた遊びを通して育つもの」

○わらべうた遊びを通して、親子とのかかわりに関する内容や実践を得る機会がもて、理解を深めることができた。

【保護者の声から】

- ・家庭でも少しの時間でしたが、かかわって楽しく遊ぶことができました。
- ・幼児期に親子で触れ合って遊ぶことがいかに大切かを知ることができ、家でもお手玉遊びをしてみたいと思いました。

3 公開検証保育

公開検証保育指導案

平成 20 年 12 月 11 日（木）

沖縄市立美里幼稚園 2 組
男児 13 名 女児 17 名 計 30 名
保育者 平良邦子

（１）活動名 「劇遊びをしよう！」

（２）活動設定の理由

① 教材観

幼児は、集団遊びの中で、楽しさを共有する関係にある友達存在に気づき、やがて、それぞれのよさを認め合い、受け入れ合い、次第に安心感を持って、自主的・積極的に友達とかかわろうとする気持ちになる。集団遊びを進める中で、他者との思いの違いにぶつかったり、いざこざの体験をしていくが、そうしたかかわりを深めていくことで、お互いに譲り合ったり、相手の気持ちに気づき合ったりして、互いにルールを共有して理解し合うようになる。

これまで、子ども達は普段の遊びの中で、友達とかかわりを意識したわらべうた遊びや集団遊びを経験してきた。主体的な遊びの時間において、習った好きなわらべ歌を自然に口ずさんで友達と遊びを楽しむようになり、特に方言クイズや手遊びでは、友達との会話の中で話題に上がり、興味を持つようになっている。

そこで、本活動においては、今まで経験してきたわらべうたを劇遊びの中に組み入れた活動として展開していくことで、共通の目的に向かって友達存在を認め合いながら、かかわって遊ぶことの楽しさを味わうことができるであろうと考える。

② 幼児観

お祭りごっこや運動会を経験して、学級や園で共通の目的や目標を持って取り組んできたことが自信となり、チャレンジ遊びへの意欲につながっている。また、学級での話し合いの場では、遊びを子ども達と共に考え、つくり出していく活動を経て、なかなか発表することに消極的であった子も自分の意見を言えるようになり、自分の思いばかりを一方向的に話していた子も我慢して、少しずつ友達の意見も聞き入れようとする姿があった。しかし、まだ個々の遊びを好む子や友達とかかわりの中で、自己主張のぶつかり合いも生じたトラブルも見られる。幼児の実態把握におけるソシオメトリック・テストでは、特定の友達の名前があがり、友達関係に偏りが見られ、固定化していることが分かった。

そこで、自分の思いを伝えたり、相手の思いも受け入れたりする経験を積み重ねていきながら、友達のつながりを感じ、友達関係に広がりを持ってかかわりが深められ、共感し合えるような言葉かけや援助の工夫をしていきたい。

③ 指導観

発表会に向けた劇遊びでは、子ども達にとって興味深いキジムナーの話を取り入れ、イメージを膨らませて表現できるようにし、子ども達のアイディアや意見も聞き入れながら、一つの目標を見だし、その目標に向かって、工夫したり協力したりする気持ちが育まれるようにしたい。さらに、互いに頑張っている友達のよさに気づき、認め合っていくことで友達とかかわる楽しさや一緒にやり遂げた満足感を味わうことのできる活動につなげ、人とかかわる楽しさを感じてほしい。

指 導 案			平成 20 年 12 月 11 日（木）	
幼児の姿	・劇遊びの練習後は、ペープサートを使って、「ナレーターするよ」「キジムナーしてね」等と話し、友達と一緒にセリフを言い合って楽しんでいる。 ・なかなか意欲を示さなかった子が、劇遊びを重ねる中で徐々にグループの友達と一緒に進んで練習に取り組むようになった。（M男，H男，K男） ・劇に必要な小道具を友達と一緒に作っている。			
ねらい	◎友達の思いやよさに気づくことの喜びを感じ、一緒に活動する楽しさを味わう。 ◎友達と一緒に協力してやり遂げようとする。	内 容	・今日の頑張ることを話し合い，協力し合っ て，劇遊びを楽しむ。 ・友達のよさに気づき，認め合う。	
活動仮説	「きらきらタイム」の場において，友達のよさに気付いた子のよさを知らせることにより，互いを認め合う力と自己肯定感が高まり，友達と一緒にしかかわって遊ぶことの楽しさを感じることができよう。			
時間	流れ	○幼児の活動	☆教師の援助	◇環境構成
9:00	わ く わ く	（ホール） ○今日の活動を確認する。 ○今日頑張ることをグループで話し合う。 ・「♥がんばるハート」について確認をする。	☆事前にトイレを済ませるよう言葉かけをする。 ☆子ども達と一緒に活動に必要な小道具を準備することで，劇遊びに期待が持てるようにする。 ◇がんばるハートのワークシートや日程表は，子ども達が見えやすい場所に掲示する。 ☆子ども達から出てきた“がんばる言葉”を大切に，今日の意欲につなげるような言葉かけの工夫をする。	
9:10	ど き ど き	○劇遊び ・劇遊びの準備をする。 ・友達と一緒に劇遊びを楽しむ ・みんなで協力して片付ける。	☆お客さんが見に来てくれたことにも触れ，大きな声で自信を持って表現できるような気持ちにつなげる。 ☆声の大きさや動作，振り付け等，工夫しているところやグループの友達と頑張っている姿を認め，褒めていくことで他児への刺激となるようにする。	
9:40	い き い	○お楽しみタイム ・「なべなべそこぬけ」で円形になる。	☆劇遊びの後は，みんなで協力して片付けができるように安全に配慮した具体的な言葉かけを行い，子ども達自身で考えて行動できるようにしていく。 ☆全員に聞く態度ができてから話し合いを始め，自分の話だけでなく，友達の話も聞けるようにする。	
9:50	き き ら き ら	○きらきらタイム（円形） ・今日の「♥がんばるハート」について，できたかどうか振り返る。 ・きらきらハートの発表をする（友達のいいところ探し） ・みんなで小道具の片付けをする。	☆きらきらタイムの場では，今日の活動を振り返りながら，頑張ったことや工夫したところ等を自分の言葉で発表できるように一人一人の思いを受けとめ，子ども達の言葉を引き出す。 ☆教師も子ども達の思いや気持ちに寄り添うことで，共感し合えるような雰囲気づくりをする。 ◇ピンクのハートを準備しておく。 ☆頑張ったことを認められた子だけでなく，友達のよさに気づいた子のよさも知らせる。	
10:00			☆来週の発表会の話題に触れ，今日の活動を明日への意欲につなげるような言葉かけをする。	
評価	・友達のよさに気づき，認め合うことができたか。 ・今日の頑張ることを意識しながら，協力し合っ て劇遊びを楽しむことができたか。			

公開検証保育の様子

① 今日の活動を確認する

写真

写真



手遊びで今日の活動の始まりを意識する。

昨日の活動を振り返りながら、子ども達の言葉を引き出していく。

活動カレンダーを準備し、発表会まで見通しを持って取り組めるようにする。

② 今日、頑張ることをグループで話し合う

写真

写真

写真

ナレーターグループの話し合いの様子

キジムナーグループの話し合いの様子

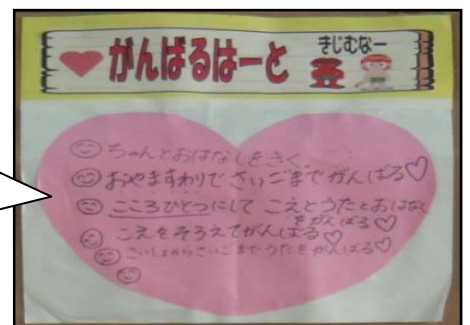
子ども達の頑張る言葉を書き示す。

③ 劇遊び

写真

準備や片付けも友達と協力してやります。

子どもから出てきた言葉を大切に今日の意欲につなげます。



写真

写真

写真

お客さんの前で緊張しながらも元気よく話をするナレーター。

動作や身振りを工夫したキジムナーと子ども達のやりとり。

仲良しになって一緒にわらべうた遊び(ゴム段跳び)をして遊ぶ様子。

④ きらきらタイム

写真

写真

話し合いの際は円形。一人だけ入れないで困っている子にも「どうぞ」と「ありがとう」という優しいかわりもありました。

『がんばるハート』を確認しながら、真剣な眼差しで今日の活動を振り返りました。

写真

写真

写真

友達のいいところ探して、子ども達の思いを受けとめていく。

ピンクのハートをもらった子だけでなく、友達のよさに気づいた子のよさも拍手で認め合う。

パートナーさんが休んでいた子を気づかしたM男さん。「一緒に手をつないであげていたね」と友達からピンクのハートを受け取り嬉しそう！

4 公開検証保育の考察

「きらきらタイム」の場において、友達のよさに気付いた子のよさを知らせることにより、互いを認め合う力と自己肯定感が高まり、友達と一緒にしかかわって遊ぶことの楽しさを感じることができであろう。

(1) 検証保育の経過

- ・今日の活動の一つ一つ確認していったことで、見通しをもってスムーズに活動をすすめることができた。
- ・“がんばるハート”の話し合いでは、昨日の活動を振り返ったことで、グループの友達と一緒に新たな目標を見つけだすことができた。
- ・グループの友達と話し合う際には登場人物の

関係で12人の多いグループであったが、円形になって話し合いを進めていったことで、一人一人が集団の一員として参加しているという意識が持てた。

- ・準備や片付けでは、今日の流れが分かっていたことで、子ども達が主体的に動き、みんなで協力して準備や片付けができた。
- ・劇遊びでは、今日の頑張ることを意識して、のびのびと楽しんで表現できたが、セリフのやりとりでは、言葉が合わなかったり、声が小さかったりして分かりにくい部分があった。
- ・「お楽しみタイム」の時間には、子ども達のやりたい遊びを設定したことで、「今日のお楽しみタイムは〇〇やろう！」などと意欲的に活動に参加することができた。

- ・わらべうた遊びでは、童謡や馴染みのある曲を遊びに取り入れたり、友達と一緒に自分たちのルールを決めたりしていた。その際、自分の意見を主張したり、友達の意見も受け入れたりしながら遊びを進め、自己肯定感を高めて、友達と一緒にしかかわって遊ぶことの楽しさを感じることができた。
- ・円形になって座る時、一人だけは入れないで困っている子に対して、近くにいた子が「どうぞ」と入れてあげ、「ありがとう」という優しい言葉のやりとりも見られた。
- ・グループでの目標を振り返ったことで、頑張りを認め合うことができ、明日への新しい意欲につながった。
- ・友達のいいところ探しでは、子ども達の側で寄り添い、子どもの言葉を引き出せるような言葉かけをしていったことで、その子なりに自分の思いを自分の言葉で発表することができた。
- ・また、友達のよさを見つけた子も皆の前で褒め、よさも認めていくようにしていったところ、自然に拍手がでて、「〇〇さんはすごいね」と認め合う場面があった。

(2) 授業研究会から

[指導・援助について]

- ・子ども達の成長の様子が日々の生活の中で見られた。トラブルがあったときも子ども達一人一人を大事にし、丁寧に支援している。
- ・注意された場面では、この子が何を求めているのか？サインを出しているのので、気持ちをその子に向け、教育の大事なチャンスと受けとめて向き合っていくことが大切である。
- ・活動経過からも友達のよさに気付いた子のよさも認め合えるような援助の視点が今日の検証保育につながっている。
- ・子ども達に対する先生への言葉かけがうまく伝わっていない場面もあった。ポイントを押さえた言葉かけが必要であった。
- ・自己肯定感が高まるようになるには、まず自分が認められていないとできない。自分のよさがわからないと他のよさを認められない。自分の持ち味を認められてこそ、人のよさが

分かるようになる。それがしかかわる力につながるのではないかな。

- ・活動の前半に主体的な遊びの触れ合いがあったからこそ、今回の劇遊びの構成に活かされている。
- ・子ども達と共に約束事を確認し、繰り返し子ども達に返して、身につけさせていくようにすることが大事である。

[子どもについて]

- ・劇遊びでも自分たちで注意し合っている。友達の様子を見たり、自分も見られたりということ意識している。
- ・Mさんから「いつもけがをしている人や頭が痛い人に優しくしてくれてありがとう」と書かれた手紙をもらった。子ども達自身が教師のよさを感じ取ってくれている。
- ・きらきらタイムの円になって話す場面では、隣とおしゃべりをする子も少なく静かに座っていて全体的に聞く態度ができていると思った。
- ・話し合うときの劇と劇との間の取り方や子ども達の動きを見ているとみんなテキパキとしている。いきいきとしている。みんなで一斉に動いているなど感じた。

(3) 活動のまとめ

本時の活動の中で、友達のよさを認め合うきらきらタイムの場をもったことで、友達の存在に目を向け、友達を誘い合って、わらべうた遊びと一緒に楽しむことができ、友達とのかかわりが広がっていった。劇遊びに入ってから、グループでの毎回の目標を決めていったことで、自分の意見を出し合って、意欲的に話し合いに参加しようとする姿勢がでてきた。

今回は園行事に関係づけて、生活発表会に向けた劇遊びの中にわらべうたを活用していったが、もっと様々な遊びの中でかかわりが深まるように、わらべうたの活用の仕方を工夫していく必要がある。

その他にも、発表が出来ていない子、していない子への配慮や子ども達自身が考えて、遊びを広げ、生み出していけるような言葉かけの工夫の必要性を感じた。今後の保育活動において

もよさを認め合う場をもちながら、自信を高めていき、進んでかかわり合えるような活動を展開していくようにしたい。

Ⅷ 研究の結果と考察

本研究はテーマ「人とのかかわる力を育むための援助の工夫 ～協同的な遊びとなるわらべうたを活用して～」と設定し、基本仮説を「協同的な遊びとなるわらべうたを取り入れ、友達と共感し、認め合う場や援助の仕方を工夫することにより、自信をもって行動し、人とのかかわる力が育つであろう」とし、研究を進めてきた。

さらに基本仮説を具体化した3つの具体仮説を立て、理論研究を行い、保育を実践してきた。そこで、3つの具体仮説を検証することにより、本研究の結果と考察とする。

1 具体仮説1の検証

「人とのかかわること」の意義を捉え、幼児の実態を調査・分析することにより、教師の援助のあり方が明確になるであろう。

幼児期の人とのかかわりについて、新しい幼稚園教育要領の領域「人間関係」の要点を捉えるとともに、降園後の子ども達の様子等について保護者へのアンケート調査を行うことにより、幼児期の集団生活の中で人とかかわりを深めていくことの大切さや自信を高めていくための教師の役割についての重要性を改めて認識することができた。

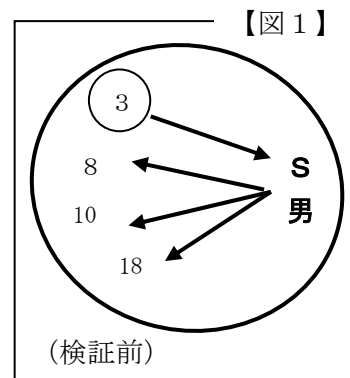
また、幼児へのソシオメトリック・テストを実施し、学級内の仲間関係を把握することで、教師の観察やかかわりだけでは把握することのできなかった幼児の実態を捉えることができ、一人一人の援助に生かしていくことができた。

図1は、一人で興味のある遊びを楽しむS男の変容である。

S男は一人の世界で想像力を働かせ絵を描くことが大好きである。白い紙を用意すると与えられた分だけ集中して絵を描いている。働きかけると誘われて遊ぶが、自分から友達の名前を呼んで誘い遊ぶことは少なかった。6月に実施

した1回目のソシオメトリック・テストでは「友達の名前はわからない」「いない」と言って、選ぶことに時間を要してはいたが、好きな友達を2人選択することはできた。しかし、相互関係は見られなかった。そこで、当番グループの編成時に新しい友達作りに生かし、集団遊びの中で多くのかかわりを持てるように配慮していった。

検証前（3回目）にS男を選択した3番のR男との当番グループを編成した。



このように学級内の仲間関係を把握し、集団遊びのかかわりに生かして、一人一人の幼児の実態に即した援助の工夫ができた。

2 具体仮説2の検証

わらべうたの教育的効果についての理論研究を深め、わらべうたを取り入れた年間指導計画を作成し、計画的に実践していくことにより、見通しを持って活動を展開することができるであろう。

人とのかかわる力を育むための年間指導計画を作成し、わらべうたに関する集団遊び等を計画し、実践していった。いろいろなわらべうた遊びの中で、ルールを確認し合いながら新しい歌を遊びに活かす工夫があったり、わらべうたに出てくる方言に興味を持ったりする姿があった。

劇遊びの話をつくり上げていく過程では、グループ作りや遊びの内容、衣装作り、話し合い活動等、いろいろな場面で子ども達と一緒に話し合い事項を考えていくように配慮していったところ、これまであまり興味を示さなかった3人の男児が友達との話し合い活動や実際の劇遊びでは、「こんなしてやったらいいんじゃない」「今日は上手だった？」等と話し、踊りのアイディアを出し合い、積極的に参加するような変容も見られた。

以上のことから、わらべうたを取り入れた年

間指導計画を作成したことで、見通しを持ってわらべうたを取り入れた活動ができ、友達と一緒にしかかわりを深めて遊ぶことにつながった。

3 具体仮説3の検証

わらべうたを活用した協同的な遊びの中で、教師が一人一人のよさを認めることにより、自信が高まり、友達のよさを見つけ、認め合うことができるだろう。

わらべうた遊びを子ども達に紹介して、集団遊びを多く取り入れていったことで、「今日はアコウの広場でゴム段したいな」「(なわとびの)いちわのからすが出来たから見てよ」「お手玉の技が出来るようになったよ」「今日もわらべうたやろう」等と話し、集団で遊ぶことの楽しさを感じながら、遊びに参加している。

検証保育後のソシオメトリック・テストの結果(表2)では、検証前と検証後と比較すると、選択された人数が検証前は93人であったが、検証後は156人に増えおり、新しい友達の広がりが見られている。

また、お互いを選び合った相互関係の増減を見ても、検証前の58人から検証後は135人と増えていた。

具体仮説1の検証でグループ編成に配慮したS男についても、普段の生活の中でしかかわりを増やしていったところ、検証後は10人の友達を選ぶことができ、3番のR男や新たに9番との相互関係もできた。その他、1, 2, 4, 5番の4人の友達からも選択された(次ページ図2)。

その後、劇遊びでは、S男とR男が同じナレーターとして一緒に活動し、グループの友達とも協力しながら発表できた。普段の遊びにおいても、行動範囲には広がりを見せ、今までの幼稚園生活では見ることができなかったS男の姿が見ることができた。

また、教師が一人一人の思いを受けとめ、友達とのつながりを感じられるようなよさを認め合う活動を行ったことで、幼児が自分も認められているという安心感を持って、いろいろな遊びに挑戦したり、友達と相談し合って遊びを工

夫したりする姿が見られた。

日常の保育の場面でも「今日の〇〇さんはすごかったね」「手伝ってくれてありがとう」「また一緒に頑張ろうね」等と子ども達同士で自然に優しい言葉がでてくるようになっている。

子ども達の表情や発した言葉からも温かい雰囲気包まれ、毎日の園生活を思いきり楽しんで充実した一日を過ごしていると感じられた。

また、今回は園全体でPTA研修を持ち、保護者の方や教師間でも遊びを共有し、各学級でも遊びを広げていったことでさらに、学級の枠を外して違うクラスの友達とも誘い合って遊ぶ姿もあった。

保護者向けの事後アンケート(次ページ表3)からは、「ご家庭で習ったわらべうたを口ずさんだり、わらべうた遊びをしている」の質問において、検証前に比べ検証後はわらべうた遊びが家庭でも話題が上がり、広がっているということが分かった。

表2 (12月17日実施 ◎相互関係 ○選択関係)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
1	◎																														10
2		◎																													10
3			◎																												6
4				◎																											10
5					◎																										10
6						◎																									10
7							◎																								10
8								◎																							10
9									◎																						10
10										◎																					10
11											◎																				10
12												◎																			10
13													◎																		10
14														◎																	10
15															◎																10
16																◎															10
17																	◎														10
18																		◎													7
19																			◎												10
20																				◎											10
21																					◎										10
22																						◎									10
23																							◎								10
24																								◎							10
25																									◎						10
26																										◎					10
27																											◎				10
28																												◎			9
29																													◎		10
30																														◎	10
◎	1	2	4	8	4	6	2	7	4	4	3	2	7	2	6	3	5	1	5	4	5	1	6	3	5	6	7	3	6	7	135
○	7	13	3	6	2	10	4	7	1	9	3	5	4	2	8	6	1	1	6	5	4	1	6	8	7	5	6	5	7	5	156

【図 2】

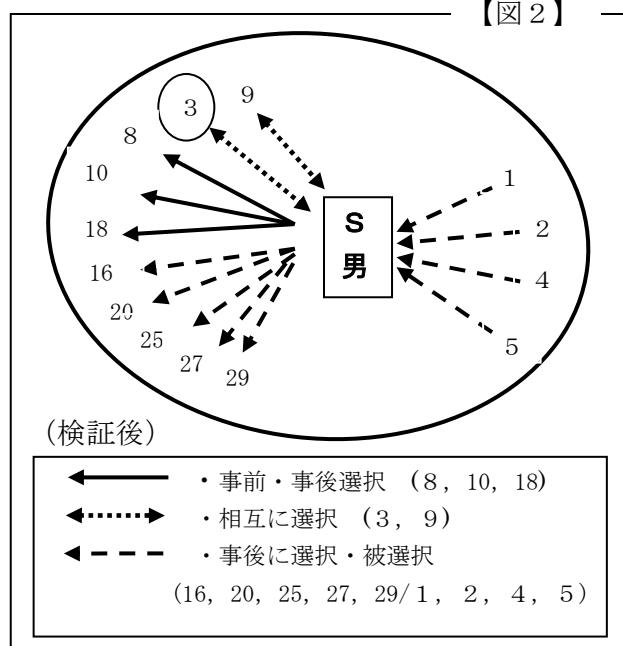


表3 保護者アンケート結果より

問8 家で習ったわらべうたを口ずさんだり、
わらべうた遊びをしている。

	検証前	検証後
あてはまる	19%	75%
どちらかといえばあてはまる	38%	19%
どちらかといえばあてはまらない	25%	0%
あてはまらない	19%	6%

検証保育後に実施した保護者によるアンケートの感想を以下に紹介する。

- ・ゴム段をアパートの子ども達と楽しく遊んだり、弟に教えたりしていました。わらべうた遊びや方言で話すことが良かったみたいで、家でも兄弟に広がって遊んでいます。
- ・「お母さん聞いて」とよく話をしてくれました。あんなに上手に皆と力を合わせて頑張っている姿に、私の方が逆に勇気づけられました。
- ・家でも一生懸命セリフの練習をしていました。方言なので多少の間違いがあり、笑いながら恥ずかしそうに、でも楽しんでいました。本番でものびのびと演技をしていて、子どもの成長を感じました。
- ・「発表会でどんなことをするの?」と聞いても、「内緒だよ」「来てのお楽しみ!」と言って、教えてくれなかったんです。でも、友達と一緒にすごく頑張ったんだな～って思いました。

・わらべうたを歌って妹にも聞かせていました。おかげで妹も私も覚えて口ずさむまでになりましたよ。方言クイズも自分で問題を考えて出したりして遊んでいます。

これらの感想からも、幼稚園での活動を楽しみ、友達と一緒に遊んでいることを家庭において伝えていることが伺える。

以上のことから、幼児が自信を高め、互いの存在を認め合うことができ、かかわり合う力を高めることができたものと考ええる。

Ⅸ 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- ・幼児期の人とのかかわりや教師の援助のあり方について理論研究をすることで、理解が深まり実践に生かすことができた。
- ・わらべうたの教育的意義について捉えたことで、幼児期において協同的な遊びとなるわらべうたが大切であることを認識できた。
- ・保護者への実態調査を行ったことで、家庭での過ごし方やわらべうたのことについて知ることができ、幼稚園で遊びを広げていく必要性を感じる事ができた。
- ・ソシオメトリック・テストを実施したことで、学級内での仲間関係を把握することができ、一人一人の実態に即した援助ができた。
- ・年間指導計画を作成することで、発達過程を押さえ、見通しの持てた活動の展開や援助の仕方を工夫することができた。
- ・グループでの話し合い活動や振り返り活動をもったことで、協力して遊びを進め、意欲的に遊びに参加しようという姿勢をもつことができた。
- ・協同的な遊びとなるわらべうたの中に認め合う場を設けたことで、お互いのよさに気づき合い、友達に認められたことが自信となって、自分の気持ちや思いを言葉に表すことができ、自己を発揮して、かかわって遊ぶことの楽しさを味わわせることができた。

2 今後の課題

- ・わらべうた遊びによる保育実践
- ・かかわりを深めていくための年間指導計画の実践や活動内容の再検討
- ・ソシオメトリック・テストと行動観察を併用した幼児の実態把握
- ・幼児が自己発揮できる場の工夫や教師の援助の工夫
- ・環境構成の工夫と再構成
- ・家庭や地域の人材を活用した交流活動や小学校との交流，連携の充実

<主な参考文献・引用文献>

- ・文部科学省 平成 20 年 10 月「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館
- ・森上史朗・柏女霊峰 2008 「保育用語辞典」 ミネルヴァ書房
- ・小田豊・奥野正義 2006 「保育内容 人間関係」 北大路書房
- ・文部科学省幼児教育課 2008 4 月 6 月「初等教育資料」 東洋館出版
- ・沖縄県立教育センター 研究報告集録 第 28 集 2000 年 9 月
- ・沖縄市立教育研究所 紀要 117 号 (平成 18 年度 後期 第 43 集)
- ・尾見敦子 2001 「幼児教育におけるわらべうたの教育的意義」
川村学園女子大学研究紀要 第 12 巻 2 号
- ・高江洲義寛 2005 「沖縄のわらべうた」 沖縄文化社